

第45回 有馬記念 [GI]

The 45th Arima Kinen

Play-back
the
Grade-I Races
2000

最大のピンチを乗り越え、
中・長距離GIを完全制覇！
最強馬がまた歴史を塗り替えた
テイエムオペラオー

20世紀最後のグランプリレース、第45回有馬記念が12月24日、快晴、良馬場の中山競馬場で行われた。断然の1番人気に推されたのは2000年に入って7戦全勝、GI 4連勝中のテイエムオペラオーだったが、序盤に不利を受けて位置取りが悪くなり、思わぬ苦戦を強いられた。しかし、直線に入ると馬群を縫うように追い込んで10頭をゴボウ抜きにし、追いつがるメイショウトウをハナ差抑えて栄冠を奪取。年間GI 5勝はJRA新記録となり、天皇賞・秋、ジャパンC、有馬記念を3連勝した馬に贈られる2億円の褒賞金も獲得した。オーナーの竹園正継氏、生産者の杵臼牧場、岩元市三調教師、和田竜二騎手、4者とも同レース初制覇となった。

馬群に揉まれてなお冴えた 抜群の勝負根性と末脚の切れ。 これが真の名馬の姿だ!

編集部=文
text by Editorial Staff

テ

「イエムオペラオーで決まりなの?」
有馬記念の週、知人から何度も同じ質問を受けた。

「競馬に絶対はない」とよく言うけど、何かアクシデントでもない限りは、やっぱりイエムオペラオーが勝つんじゃないかな」

筆者は聞かれるたびにこう答えた。いや、正確に言うならば、そう答えるしかなかったのだ。

2000年、イエムオペラオーの戦績は全くもってケチのつけようがない完璧なものだった。無敗での重賞7連勝。



K.Ishiyama

単勝オッズが10倍を切ったのはイエムオペラオー(上)、メイショウドトウ(右下)、ナリタトップロード(左下)の3頭だった



T.Kaga



M.Yamada

そのなかには4つのGIレース、天皇賞・春、宝塚記念、天皇賞・秋、ジャパnCが含まれている。後続に大きな差をつけた勝利が少ないために、その偉大な実績と比べて今ひとつ評価が低いところもあるが、僅差での勝ちにしても、その内容をよく吟味してみると、どれも完勝と言えらるものばかりである。99年、皐月賞を制したあとの歯がゆいばかりの惜敗続きが、まるで悪い夢でもあったかのようにならぬ敵の快進撃を見せつけた。

戦で蓄積している目に見えない疲労と、中山の芝2500メートルという難しいコースでレース中に起こるアクシデントくらいのものであった。だが、そのアクシデントがまさか本当にイエムオペラオーに降りかかることは当事者でさえも思わなかったのではないだろうか……。

※

レースは予想外の展開になった。逃げると見られていたホットシークレットが出遅れたためジョービッグバンとゴイングスズカが並んで先頭に立ち、ペースはいきなりスローになる。そして好スタ

ートを切ったイエムオペラオーだが、3コーナーを過ぎたあたりで進路を塞がれて和騎手が手綱を引かざるを得なくなり、一気に位置取りを下げて12、13番手まで後退した。しかも、馬群がスタンド前に差し掛かったあたりでアドマイヤボスに外から被せられて、馬込みのなかに閉じ込められてしまったのだ。

悪の展開である。しかし一向にペースは上がらず、馬群もばらけることはない。その状況に観念したかのように和騎手はじつと手綱を抑え、イエムオペラオーをなだめながら静かに走らせた。

き合っていた。その模様がターフビジョンに映し出された瞬間、スタンドは大きくどよめいた。2000年を無敗で突っ走ってきた中長距離の王者に最大のピンチが訪れたのだ。

レースが動いたのは2周目の3コーナー。ダイワテキサスがジョービッグバンに並びかけて一気に先頭を窺うと、ナリタトップロードも外を回ってラストスパートにかかる。やっとペースが上がったが、窮屈な馬込みに入ったイエムオペラオーは動くに動けず、直線へ向いた時点でまだ彼の前には10頭あまりがひしめ

だが、やはり王者はそのまま終わることとはなかった。直線坂下、やや馬群がばらけた地点から満を持してラストスパートに入ると、ギアをグンとチェンジした。そして狭い隙間に躊躇なく突っ込んで壁をこじ開けると、先頭に立って逃げ込みをはかるダイワテキサスを目指して猛然と襲いかかった。



H.Ozawa

スタート。先行すると見られていたホットシークレットがやや出遅れたため、代わってジョービッグバンが逃げる展開に



M.Sakitani

1周目の4コーナー。不利を受けて大きく位置を下げたイエムオペラオーは、後方の12~13番手を進む



H.Watanabe

1周目のスタンド前にかかって、ペースが落ち着く。イエムオペラオーは動くに動けず、後方のまま



K. Yamamoto

第45回 有馬記念 [GI]

The 45th Arima Kinen



H. Ozawa

2周目の3コーナー。テイエムオペラオーは外を進むアドマイヤボスに“出口”を塞がれ、馬群に閉じ込められる

度エンジンがかかったテイエムオペラオーの爆発力は凄まじかった。馬群から抜け出すやいなや粘るダイワテキサスを一気に交わし去り、渾身の力で追いつがるメイショウドトウとの叩き合いに持ち込む。こうなれば勝負根性に磨きがかかった王者にかなうものはいない。差し返そうとするメイショウドトウをハナ差ながら抑え切って最大の危機を脱出。2000年を無敗の8連勝で締めくくり、年間GI5勝、中長距離GI完全制覇という大記録を打ち立てたのだ。

※



M. Sakitani

2周目の4コーナー。全馬がラストスパートに入るが、テイエムオペラオーはまだ“出口”が見つからない

久々に震えが来るようなレースを見た。本物の強さを見た。識者のあいだではテイエムオペラオーを評して、「平成のシンザン」という声も上がり始めた。後継を大きく離して勝つことは少ないが、大レースではきつちりと勝利を収めるという勝負強さからテイエムオペラオーをそうならえたとわけてある。

65年の有馬記念でシンザンが大きなピンチを経験したことは有名だ。内をいくミハルカスが直線へ向いて大きく外へ進路をとったため、自身はさらに外を回っ

て、外ラチぎりぎりを通らざるを得なくなったのである。それでもシンザンはミハルカスを一瞬にして捉え、名馬としての誉れを一段と高めた。

仮に名馬の条件の一つが、どんな状況のなかでも勝利をもにできる強さであるとするならば、今回の有馬記念でテイエムオペラオーは十分にその条件を満たしたと言える。

2001年もテイエムオペラオーは国内で現役を続行する。これから見せてほしいのは、凡庸な勝利ではなく、特別な強さである。

ゴール寸前、メイショウドトウも粘りに粘ったが、テイエムオペラオーは際どくハナ差で凌ぎ切った

テイエムオペラオーは4歳時の皐月賞を加えてGI6勝目となった。これはシンボリルドルフの7勝に次ぐ記録

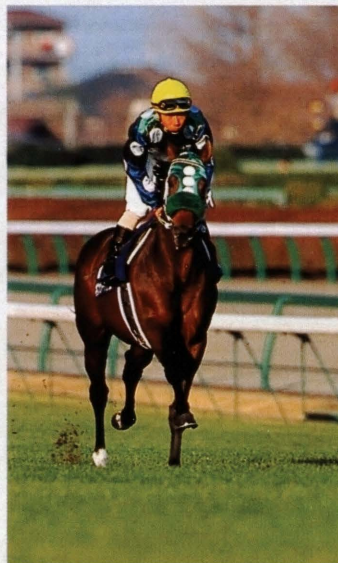
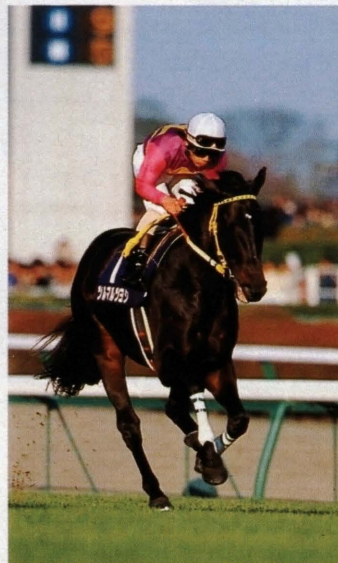
テイエムオペラオー

1996年3月13日生 牡5歳 栗毛
父オペラハウス
母ワンスウェド(父Blushing Groom)
栗東・岩元市三厩舎
馬主/竹園正継氏
生産者/梓臼牧場(北海道浦河町)
通算成績/19戦12勝
総取得賞金/13億9996万3000円

- 主な勝ち鞍/
00有馬記念(G I)
00ジャパンC(G I)
00天皇賞・秋(G I)
00宝塚記念(G I)
00天皇賞・春(G I)
99皐月賞(G I)
00京都大賞典(G II)
- 00阪神大賞典(G II)
00京都記念(G II)
99毎日杯(G III)

M. Sakitani

M. Sakitani



4番人気に推されたツルマルツヨシは4コーナーで故障を発症して競走を中止。レース後、競走能力喪失と診断を下された

これか号に退レースとなったキングヘイローは、最後方から追い込んで4着に健闘した。2001年から種牡馬になる



M. Yamada

第45回有馬記念 (GI)

12月24日 中山 芝2500m 4歳以上 晴・良 16頭

着順	馬番	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	タイム(着差)	単勝オッズ
1	7	テイエムオペラオー	牡	5	57	和田竜二	2:34.1	1.7
2	13	メイショウドトウ	牡	5	57	安田康彦	ハナ	6.8
3	12	ダイワテキサス	牡	8	56	蛭名正義	3/4	81.0
4	10	キングヘイロー	牡	6	56	柴田善臣	1/2	39.9
5	4	アドマイヤボス	牡	4	55	武豊	ハナ	19.3
6	15	アメリカンボス	牡	6	56	江田照男	2 1/2	131.4
7	11	ステイゴールド	牡	7	56	後藤浩輝	クビ	46.5
8	16	メイショウオウドウ	牡	6	56	河内洋	1	57.2
9	4	ナリタトップロード	牡	5	57	的場均	3/4	7.6
10	3	ホットシークレット	騾	5	57	横山典弘	クビ	34.0
11	8	ユーセイトップラン	牡	8	56	中舘英二	クビ	144.7
12	2	マチカネキノホシ	牡	5	57	岡部幸雄	5	24.1
13	5	ジョービッグバン	牡	6	56	山田和広	1 1/4	54.9
14	6	トーホウシデン	牡	4	55	田中勝春	3 1/2	15.2
15	9	ゴーイングスズカ	牡	8	56	芹沢純一	10	101.0
1	1	ツルマルツヨシ	牡	6	56	藤田伸二	競走中止	13.1

単勝⑦170円 複勝⑦120円 ⑬170円 ⑳770円
枠番連勝④-⑦330円 馬番連勝⑦-⑬380円
ワイド⑦-⑬230円 ⑦-⑱1730円 ⑱-⑳2900円



F. Nakao

直線坂上。馬群を縫うように追い込んできたテイエムオペラオーがダイワテキサスを捉え、それをメイショウドトウが追う